

新たな取り組み

## 現場ニーズの把握

活用に適した状況を提示し、地方整備局等を通じて適用可能な現場を確認  
**(例) 交通規制時間が長くとれない現場で活用可能な補修技術**

## 開発技術の採用に必要な情報の提供

研究成果に加えて、開発技術の採用に必要な道路管理者目線の情報(メリット・デメリット含む)を現場に提供することにより、現場と技術のマッチングを促進  
**(例) 既存の技術よりはコスト面で高いが、それ以上に施工性や品質面で優位な技術**

## 新道路技術会議

広く公募

一定水準に達しているか評価

現場と開発技術をつなぐ  
新たな取り組み

現場と技術の  
マッチング

研究開発ステージ  
(研究・実証)

現場適用ステージ  
(試行・検証・改良)

(参考)大臣官房における  
新技術活用の制度

【ポイント】  
公募により  
広く技術を募集  
→**公平性の確保**

【ポイント】  
現場活用の前に  
技術評価を実施  
→**技術の信頼性の確保**

【ポイント】  
現場ニーズを提示し、  
ニーズに応じた技術に  
フィールドを提供  
→**現場と技術のマッチング**